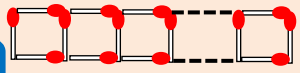
シリーズ　学習評価の充実を図る④

# 机間指導で子どもを見取り、確かな学力の向上を図る

**本号では、日野中学校の実践例を通して、机間指導を通して子どもを見取り、適切な指導を行うポイントについて紹介します。「机間指導をしているが予想外の反応に困っている」「子どもの様子を見てまわるのだけれど、どのように指導してよいのか分からない」といった課題の解決や、より効果的な机間指導を行う際の参考にしてください。**

日野町立日野中学校　校内研より

＜問題＞マッチ棒を並べて、正方形を作っていきます。
正方形が１００個のとき、マッチ棒の本数をどのようにして求めますか。



**POINT1　子どもの実態を把握し、子どもの反応を予想し、具体的な支援を準備する。**

＜指導者の予想＞　Ａ１～３：３本ずつマッチが増えると考える　Ｂ１、２：縦のマッチの数に目を向けて考える
Ｃ求める方法が見つからない

Ａ１：１本目を別にして考えると、正方形の数が増えるとマッチ棒は３本ずつ増えていく。
Ａ２：１つ目の正方形を別にして考えると、正方形が増えるごとにマッチ棒は３本ずつ増えていく。
Ａ３：正方形の数とマッチ棒の数との関係を対応表を使って調べている。
Ｂ１：正方形は４本のマッチ棒でできているので、重なったマッチ棒の本数を引いて考える。
Ｂ２：上の段のマッチ棒と下の段のマッチ棒の合計は正方形の数の２倍あって、縦のマッチ棒は正方形の数より１本多い。
Ｃ　：求める方法が見つからない。

＜具体的な支援＞

＜Ａ１～３の支援＞
正方形が何個のときでも求めることが可能だろうか。

＜Ｂ１、２の支援＞
マッチ棒の増え方に注目して式がつくれないか。

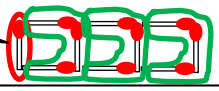
＜Ｃの支援＞
マッチ棒の数との関係を表に表せないか。

**POINT2　机間指導で子どもを見取り、子どもに合った具体的な支援を行う。**
**☆評価規準に照らし努力を要する子どもへの支援だけではなく、概ね満足な状況にある子ども、満足な状況にある子どもがさらに伸びる働きかけを行うことも大切です。**

机間指導の支援によって、子どもの思考はどんどん深まっていきます。

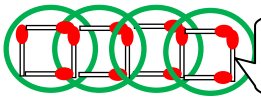
＜授業の実際　□子どもの反応　◇教師の支援＞

A1　３×１００＋１
◇１の意味は？



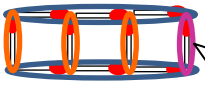
１は最初の１本です。

B1　４×１００－９９
◇１００や９９の意味は？



なぜ１００でなく９９かというと・・・

B2　２×１００＋１０１
◇１０１とは？



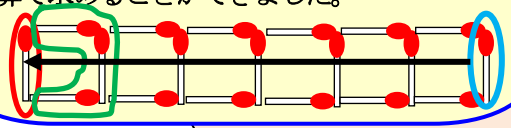
この部分のマッチの数は、四角形の数＋１になっています。

＜☆子どもの変容＞

☆式が書けている子どもへは「いいね。別のやり方も考えてみよう。」と声をかけることで、子どもは多様な見方や思考の広がりにつながっていきました。

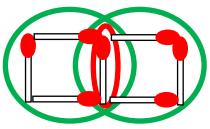
C→A1　１＋・・・
◇正方形は増えるとこの図の右につながるんだね。この１はどこ。
□最後のマッチ棒です。
◇見えないから最初にしてごらん。そうすると正方形が増えるたびにマッチ棒はいくつずつ何個増えるの。

☆「１はどこ？」と問うことで、この子どもは、マッチが３つずつ増えていることに気づき、１００個の場合のマッチの数を計算で求めることができました。



C→B1　４×１００＝４００
□はい。
□正方形の数です。
□２個。
□「あっ、７本。」

◇何かおかしいと思うの。
◇何がおかしいの。図で考えてみようか。この１００って何？
◇４×ってこれは何の意味？（図をくくりながら）このこと言ってる？不思議な丸になってない？具体物を使って確かめよう。正方形何個？
◇これ８本？数えてごらん？
◇１本どこいった？



☆実際に具体物を机に並べながら、簡単な数の場合で考えることで、この子どもは、重なりに目をつけて考え始めました。

☆授業での子どもの反応は、指導者の予想とほぼ一致していました。教材の価値を指導者が理解した上で、子どもの実態を把握して授業をデザインしていることが分かります。また、子どものつまずきに対して、教師が寄り添い簡単な数に置き換えて考えたり、図や具体物を使って考えたりする具体的な支援を行うことで、子どもは何につまずいているかを自覚し、「あっ！」と自分の考えをノートに書くことができました。子どもの変容を生み出す支援の大切さが際立った授業でした。